

ふくい

社会福祉

2026
7・8
No.479

Fukui Social Welfare

ふくし
福志新世代
Vol.7

「若者のボランティアフェスティバル2026」
実行委員のみなさん



若者が「福井の若者の“ボラ魂”を揺さぶる」

昨年度から始まった、「若者のボランティアフェスティバル」を今年度も開催します。

県内の高校生～大学生14名が集まり実行委員を設置して、「若者の“ボラ魂”を揺さぶる」をテーマに、みんなでイベント内容を考えています。

昨年度は高校生らが運営するNPO ふくい SMILE アクティ部、福井県立大学からのメンバー構成でしたが、今年度は敦賀市立看護大学、福井工業大学からのメンバーが加わり、スケールアップした実行委員でイベント企画を進めます。

1回目の会議冒頭に、今の気持ちを学生に尋ねると、「交流が広がるのがうれしい!」「自分達で企画を考えて行くのが楽しみ!」と前向きな声が多く、企画のアイデアもたくさん生まれ、若者の発想力の高さを感じさせられました。

フェスティバルまで、短い準備期間となりますが、一人ひとりが自らのボランティア魂と向きあいながら、悩みなながらもイベントを考えていますので、たくさんの方のご来場をお待ちしております。

詳細は
2-3Pの
特集へ!

最新情報は
コチラ!



CONTENTS

イベント日：8/11（火・祝）エルパ1F イベントスペース

2,3p **特集** ボラ魂に火を灯せ「ふくいボランティアキャンペーン」

4p 案内 ◆ 福井県福祉人材センターの取組み

8p 報告 ◆ 企業のチカラを地域のミライに
株式会社平和堂

5p 案内 ◆ 社会福祉法人施設経営セミナー 開催のご案内
連載 ◆ 経営相談Q&A

9p 広告 ◆ ボランティア活動保険

6,7p 報告 ◆ 令和7年度事業報告・決算報告

10p 報告 ◆ 寄付・寄贈
募集 ◆ シニア応援文化祭 出演グループ募集

『ボラ魂に火を灯せ』
だま

—共に学び、共感を広げる福祉共育とボランティア—



地域の中で広がってきた「福祉共育」

福井県内では、これまで市町村協が中心となり、学校や地域と連携しながら福祉教育を進めてきました。

福祉教育というと、「疑似体験をしたり、高齢者や障がい者と交流するもの」というイメージを持たれるかも知れません。しかし、本来は一人ひとりの「生きづらさ」の背景にある社会的課題に気づき、変えていくために、こどもも大人も、立場を超えて共に学び合い、地域の中で「共に生きる力」を育むこと、それが福祉教育の大切な目的です。

本会では、このような視点から福祉教育を捉え、「共育」という考え方や実践の展開を図っています。

『ボランティア体験事業』が果たしてきた役割

本会が長年実施してきた『ボランティア体験事業』も、こうした福祉共育の一環として位置づけています。

この事業は、

- さまざまな分野のボランティア活動を知り
 - 活動を通して人と出会い、関わり
 - 自分の感じ方に気づき、考えるきっかけとなる
- といったプロセスを通して、参加者一人ひとりが地域社会との関わり方を見直す機会となってきました。

そしてその場合は、参加者だけでなく、受け入れる施設や団体の人々にとっても、互いに学び合う場となっています。

本会と市町村協、施設や団体等が連携しながら積み重ねてきたこれらの取組みが、本県の福祉共育の土台を形づくっています。

若者の声から見えてきたこと「若者のボランティア活動意識に関するアンケート」（令和6年度）

令和6年度、本県の若い世代を対象に、ボランティア活動に対する意識や意欲を把握するためにアンケートを実施しました。

そこでは、ボランティア活動に興味がある若者は半数を超えるものの、直近一年間で活動経験がある若者は全体的に少ないことが明らかになりました。

そして、若者のボランティア参加意欲が高まる三要素として

その1 一緒に活動する仲間がいること

その2 ボランティア活動に関する情報が入手しやすい、楽しさが伝わってくることに

その3 ボランティア活動への参加手続きが簡単・簡潔にできることに

が挙げられました。

福祉共育を通じてボランティア活動への関心が育まれている一方で、その気持ちを行動へとつなぐ「最初の一步」を後押しする取組みが求められていることが明らかになりました。

出会いから広がる「若者のボランティアフェスティバル」（令和7年度）

アンケートを受けた具体的な展開として、令和7年度より『若者のボランティアフェスティバル』を実施しています。県内の高校生・大学生が実行委員となり、イベントの企画・運営・振り返りまでを一貫して担うことで、主体的な学びと実践の機会を創出しています。

このフェスティバルは、実行委員である若者自身がさまざまな人や活動と出会う場であると同時に、参加者も含め世代を超えて関わり合い、共に学び合

う福祉共育の場としての役割も担っています。実行委員はもちろん、当日の来場者やボランティアとして参加した大人にとっても、ボランティア活動の意義ややりがいを学び・伝える経験が、新たな気づきを生み出しています。

ボラ魂に火を灯せ「ふくいボランティアキャンペーン」(令和8年度)

こうした状況を受け、今年度、本会では「ボラ魂に火を灯せ」をキャッチフレーズに、「ふくいボランティアキャンペーン」を展開しています。

ここでいう「ボラ魂に火を灯す」とは、ボランティア活動は「大事だ」と頭で分かっているけれども、実際に行動するには「心(魂)が動くことが必要」という意味です。「放っておけない」「仲間といっしょならできるかもしれない」そんな一人ひとりの心にある心の動きへの共感を大切にしています。

この共感を広げる取組みとして今年度力を入れて



いるのが「ランティーカーバズらせ作戦」であり、その中心となるのが「ランティーカーキャラ使いコンテスト」です。福井県ボランティアセンターのマスコミキャラクター「ランティーカー」を介して、ボランティアの楽しさややりがいだけにとどまらない心の動きを表現していただく企画です。

思いをかたちにーランティーカーで広げる共感の輪

表現された思いを本会がSNSなどを通して発信することで、「同じ気持ちを感じたことがある」「自分も何かしてみたい」と少しずつ「共感の輪」が広がっていくことを願っています。

これまでの福祉共育やボランティア活動で感じたり気づいたりしたことが、言葉として発信されることで、誰かの心を動かし、新たな一歩につなげる力を持っています。

今こそ、その思いを「ランティーカー」を通して表現してみませんか。楽しかったこと、うれしかったこと、少し戸惑いながらも挑戦したこと、誰かとの関わりの中で感じたことなど、どんな小さな気づきでも構いません。ランティーカーというキャラクターを通して表現することで、あなたの中にある「ボラ魂」が私たちとなり、たくさんの人へと伝わっていきます。

これまでの学びや経験を、次の誰かへ。あなたの中に灯った「ボラ魂」を、ランティーカーにのせて届けてみませんか。



福井県福祉人材センターの取組み

少子高齢化が進み人材確保が難しくなっている中、本会では福祉人材の確保・定着に向けた取組みと、若年層に福祉の仕事を身近に感じ、興味・関心を持ってもらうための取組みを重点的に行っています！

ちょこっと アルバイト 就労



学生を対象としたちょこっとアルバイトを受入れていただける法人を随時募集しています。

対象 専門学校生、短期大学生、大学生

内容 高齢・障がい・児童等事業所・施設にてSNSや広報の運用業務等、イベントの企画・運営等、食事の準備、利用者の話し相手、見守り等、事業所内の清掃環境整備など

参加法人
申込フォームは
こちら



福祉施設（高齢・障がい）において、補助的業務（食事の配膳や掃除など）に、週数日・数時間程度のパートタイム（短時間）就労『ちょこっと就労』の受入施設を随時募集しています。

人材センターでは、広報誌等による周知や、就職面談会の開催、求職者の紹介などを通じて、施設と求職者とのマッチングを支援します！

職員の負担軽減

専門的な資格を必要としない業務を「ちょこっと就労」に担ってもらうことで、職員の負担を軽減できます！

地域貢献

シニアや主婦、若者が空き時間を利用して働くことで、地域における多様な人材の活躍の場づくりにつながります！

参加施設の声

- ・忙しい時間帯に来てもらい、現場の職員の負担軽減につながっている。
- ・職員が利用者に寄り添う時間が増え、要望等に余裕を持って対応できるようになった。

若年層向け



【ふくしキッズプロフェッショナル】

児童が「働くこと」や「労働への対価」を楽しみながら体験する機会を通じて、福祉の仕事の関心や理解を深めるイベントを県内のショッピングセンターで実施しています！

〈令和7年度体験内容〉

- 介護・・・介護ロボット操作
- 障がい・・・白杖歩行、点字名刺制作
- 看護・・・バイタルサインの測定
- 保育・・・保育士の1日

〈参加児童の声〉

- ・ふくしの仕事がとてもよくわかった、またしたい！
- ・大人になったらふくしの仕事をしたい。

〈保護者の声〉

- ・福祉の仕事を体験できる。このような機会ありがたい。
- ・私たちが勉強になる。

介護の魅力発信アンバサダー学校訪問事業 ～未来にIPPO（一歩）応援団～

介護施設・団体の協力のもと、介護職員が「介護の魅力発信アンバサダー」として県内の小・中学校で出前授業を行い、介護の仕事のやりがいや魅力などを発信する活動を支援しています。

令和7年度からは高校も対象に含め、5か所の高校へ訪問しました。出前授業に参加した高校生からは、「介護の話を聞いて大変だと思ったけど、やりがいがあるということもわかった」「介護は一方的な仕事だと思っていたけどお互いに得るものがあるということを知れた」など、介護に対する理解やイメージアップに繋がったとの感想を多くいただいています。



～アンバサダーに登録いただける介護施設を募集しています！～

Google フォーム（右記二次元コード）に施設の情報等を記入し、登録をお願いします。



〈問合せ先〉 福祉人材課 福井県福祉人材センター

TEL : 0776-28-3180 E-mail : jinzai-center@f-shakyo.or.jp

令和8年度 社会福祉法人 施設経営セミナー 開催のご案内

開催日時	テーマ	講師	研修方法等	対象者
9月1日(火) 13:30～16:20	労務管理(労務リスク対策) 労働関係法令改正と実務対応の ポイント	社会保険労務士法人 青垣労務管理事務所代表 特定社会保険労務士 青垣達也 氏	集合研修 (県立図書館)	人事労務管理責 任者・担当者 等
9月17日(木) 13:30～16:20	法人会計(実践編) 事務担当者が知るべき経理事務と 社会福祉法人特有の会計処理に ついて実践を交え学ぶ	斎藤公認会計士事務所 公認会計士・税理士 斎藤栄慶 氏	集合研修 (アイアイ鯖江・ 健康福祉センター)	会計担当職員、 中堅職員、 新任の施設管理者・役員 等
11月19日(木) 13:30～16:20	法人会計(予算・決算編) 社会福祉法人に求められる適正かつ 公正な財務管理と経営状況の把握 手法	斎藤公認会計士事務所 公認会計士・税理士 斎藤栄慶 氏	集合研修 (アイアイ鯖江・ 健康福祉センター)	役員(監事含む)、 管理者、事務長、 会計・予算担当者 等

※申込方法等の詳細な開催要項は、各社会福祉法人あて通知するとともに、
県社協 HP (<https://www.f-shakyo.or.jp/>) に掲載します。

「組織別に探す」→「総務企画課・法人支援部門」→「社会福祉施設経営相談室」→「社会福祉施設経営相談室とは」→「□施設経営に関するセミナーの開催」

昨年度の受講者からのご意見やご感想を紹介します。(抜粋)

- 決算理事会などの振り返りと確認ができ良かった。
- 監査を前に、監査視点の講義はたいへん参考になった。
- 予算編成前の勉強になった。
- 決算書類のチェックポイントが分かった。
- 来年度予算理事会の準備にとっても参考になった。
- 事例を交えながら分かりやすかった。
- 具体的な講義だったのでさっそく求人票の内容を書き直そうと思う。



社会福祉法人のための経営相談Q&A

社会福祉施設経営相談室では、社会福祉法人・施設の方からの経営等に関する様々な相談に応じています。今回は、県退職共済事業の制度改正に伴い退職金規程等を改正する際の留意点などについての質問をご紹介します。

Q 懲戒処分等を受けた職員への退職金について、どのような規定を設けるべきですか。

A 今回の制度改正に伴う通知では、必要に応じて、懲戒処分等を命じられた者への退職金支給に関する規定を追加するよう案内されています。
退職金の全部または一部を不支給・減額とする可能性がある場合は、あらかじめ就業規則または退職手当規程に明確な根拠を置いておく必要があります。規程上の根拠がないまま、退職時に個別判断で不支給・減額とすることは、後日の労務トラブルにつながる可能性があります。

その他、「制度改正に伴い確認が必要な点」や「県共済事業退職金と同額を支給する場合の規程改正の必要性」「法人が支給額を独自に決定する場合の規程改正」「規程改正を行う際の手続き」といった退職金に係る Q&A を、下記の 福祉施設 Q&A (職員処遇・労使問題＞労働契約) に掲載していますので、ご覧ください。

社会福祉法人の運営や会計処理でお悩みの方は経営相談室までお気軽にご相談ください。

TEL : 0776-24-2347 メール : shisetsu@f-shakyo.or.jp

県社協ホームページに、様々な Q&A を用意していますのでご活用ください。

県社協 HP > 組織別に探す > 総務企画課・法人支援部門 > 社会福祉施設経営相談室 > 福祉施設経営 Q&A



令和7年度 県社協事業・決算報告

【概 況】

令和7年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響や相次ぐ災害対応により、第5次ふくい地域福祉プラン21(令和2～6年度)に基づく取組みが計画どおりに進まない状況が続いてきたことを受け、社会情勢が徐々に落ち着きを見せ始めた中で、計画期間を1年間延長し、第6次プランの策定作業に取り組みながら、引き続き「4つの基本目標」に基づく取組みを進める年度として位置付けました。

これまで積み残しとなっていた取組みの検証および再構築を図りながら、コロナ禍や災害対応を通じて顕在化した地域のつながりの希薄化、深刻化する人材不足、物価・賃金上昇の影響など、社会環境の変化に起因する様々な福祉課題への対応に取り組みました。あわせて、市町社会福祉協議会をはじめとする関係機関・団体との連携を一層強化するとともに、地域福祉を支える担い手づくりにも注力し、今後の地域福祉の再構築に向けた支援体制づくりを進めました。

基本目標1

「社会的孤立を生まない地域づくり」

身近な地域において誰もが役割を持ち、安心して関われる関係づくりが一層求められていることから、子どもやシニア等世代や背景を超えた交流の場づくり、気づきと行動につなげる学びの機会の提供、ボランティア意識の啓発に取り組みとともに、地域団体・関係機関との連携をさらに深め、持続可能な支え合いの仕組みづくりを進めました。

<主な取組み>

子ども未来支援事業

企業等の寄付金により子ども食堂等の地域の居場所づくりを応援

シニア応援文化祭

シニアの方々の活動発表機会の提供により世代を超えた交流を促進

若者ボランティアフェスティバル2025

若者によるボランティア企画により、実施者と参加者双方が交流



基本目標2

「地域と福祉を支える担い手づくり」

福祉の仕事の魅力や意義を幅広い層に発信し、将来の担い手の発掘・確保を図るとともに、専門職の資質向上やキャリア形成支援、職場定着に向けた取組を推進しました。あわせて、外国人介護人材を含む多様な人材が円滑に活躍できる体制整備にも取り組み、持続可能な福祉人材基盤の構築を進めました。

<主な取組み>

ふくしキッズプロフェッショナル

小学生を対象とした福祉の仕事体験を通して将来の担い手を発掘

福祉・介護の仕事の魅力発信

デジタル媒体等で若手人材に福祉・介護職の魅力を発信

福祉従事者を対象とした各種研修の実施

福祉従事者に対して専門職資質向上等の研修機会を提供

外国人介護人材の受入れ支援

外国人介護人材の受入支援により、福祉サービス提供体制を維持



基本目標3

「制度の狭間を生まない包括的支援体制づくり」

家計改善支援や専門相談、福祉サービス利用援助事業を通じ、安定した生活の実現を見据えた自立支援を念頭に置き、継続的なフォローアップ体制の強化に取り組みました。また、福祉サービス事業所の経営基盤の強化や社会福祉法人間の連携による支援を推進し、複合的な課題を抱える世帯を支えるセーフティネット機能の更なる充実を図りました。

<主な取組み>

生活福祉資金貸付事業

生活困窮者等への貸付および自立生活に向けたフォローアップ

日常生活自立支援事業

判断能力に不安のある方への福祉サービス利用援助による生活支援

社会福祉施設経営指導事業

社会福祉法人への経営相談・支援による福祉サービス提供維持



基本目標4

「新たな課題に取り組む組織・ネットワークづくり」

本会および県内における多様な福祉活動の動向や実践を把握するとともに、それらを多様な手法を通じて発信・共有し、福祉活動の可視化と理解促進に努めました。また、共通する福祉課題や地域特性に根差した課題について、県民、関係団体、行政等と継続的に情報共有を行い、相互の役割や強みを生かした連携関係の構築・強化を図りました。

こうした取組みを通じて、新たに顕在化する課題への対応力向上と、分野や立場を超えたネットワークづくりを進めるとともに、今後の事業展開や次期計画づくりにつなげました。

<主な取組み>

福祉情報提供事業

県内福祉活動の情報を広報誌・ホームページ・SNS等で発信

寄付・寄贈の受入れ

企業・個人等の福祉への想い（寄付等）を受入れ、福祉活動に橋渡し

第6次「ふくい地域福祉プラン21」の策定

地域、福祉業界が直面する課題に対応すべく県社協中期計画を策定



令和7年度一般会計（社会福祉・公益事業区分）事業活動による収支

【事業活動収入】					【事業活動支出】				
	割合	R7 (A)	R6 (B)	増減 (A-B)		割合	R7 (C)	R6 (D)	増減 (C-D)
会費収入	2.5%	14,348	15,675	△ 1,327	人件費支出	41.9%	268,687	265,621	3,066
寄付金収入	0.6%	3,426	5,586	△ 2,160	事業費支出	48.1%	308,724	320,478	△ 11,754
補助金収入	36.1%	209,090	203,632	5,458	事務費支出	6.8%	43,340	38,893	4,447
受取金収入	36.8%	213,280	208,446	4,834	助成金支出	1.9%	12,223	12,520	△ 297
事業収入	14.5%	84,073	80,178	3,895	負担金支出	1.2%	7,827	7,086	741
負担金収入	2.0%	11,879	1,564	10,315	その他の支出(分組金を含む)	0.1%	687	3,757	△ 3,070
受取利息配当金収入	3.0%	17,126	15,312	1,814	計	100.0%	641,488	648,355	△ 6,867
その他の収入(分配金を含む)	4.5%	25,898	19,495	6,403					
計	100.0%	579,120	549,888	29,232					

(単位：千円)

収入は、能登半島地震支援にかかる助成金交付、技能実習生受入者数の増加、金利上昇による運用利息などにより、前年度比 29,232 千円の増となりました。

また、支出は前年度比 6,867 千円の減となりました。これは前年度に対応した能登半島地震支援にかかる支出（約 17,000 千円）が減少したことによるものですが、その要因を除くと実質的には約 10,000 千円の増となります。これは、賃金や物価上昇等によるものです。

(注) 当期の資金収支差が△62,368 千円となりますが、これは「福祉人材育成・ひとり親家庭等自立資金貸与事業」で生じているものであり、過去に一括交付された補助金を財源としているため、実質的にはマイナスの状況にはなっていません。

企業のチカラを地域のミライに！地域福祉を支える企業紹介！

株式会社 平和堂

株式会社 平和堂（滋賀県彦根市、代表取締役社長執行役員…平松正嗣、以下「平和堂」）は、北陸出店50周年を迎えた令和5年度より、店舗に「こども食堂応援募金箱」を設置し、寄せられた募金を本会の「子ども未来応援バンク」にご寄付いただいています。

貢献し続ける企業を目指して

平和堂は、1973年10月、福井県敦賀市に県下最大のショッピングセンター「敦賀店」を、滋賀県外1号店としてオープンしました。現在では福井県内に6店舗を展開しています。

企業理念に、「お客様と地域社会に貢献し続ける企業」を掲げ、「地域密着ライフスタイル総合（創造）企業」を目指しています。

これは、地域の抱える課題について地域と一緒に取り組むことで、明るく元気で、健康な地域を創っていくという「地域共創」が根幹にあり、地域の持続的な成長に貢献↓地域経済を活性化↓社会がより良くなるという「地域の健康」が、平和



【店内に設置されている募金箱】

域共創」が根幹にあり、地域の持続的な成長に貢献↓地域経済を活性化↓社会がより良くなるという「地域の健康」が、平和

堂の成長と理念の実現に繋がると考えられています。

この企業理念のもと、こどもたちをはじめ幅広い世代の住民が交流し、地域の居場所となる「子ども食堂」を広げる支援は、「地域共創」に通ずるとともに、本県における地域福祉向上の大きな後押しとなっています。

子ども未来応援バンクによる支援の輪

平和堂をはじめ様々な企業からの子ども未来応援バンクへの寄付により、これまでに13か所のこども食堂が立ち上がったほか、養護施設や里親の元で暮らす子どもたちの進学や就職に向けた支援を行ってきました。

昨年度、これまで助成を受けた子ども食堂を対象に行った調査では、資金不足や人手不足を運営の課題としている回答が多いことから、寄付やボランティアなどによる下支えが継続的な活動には必要であることが伺えます。（左下参照）

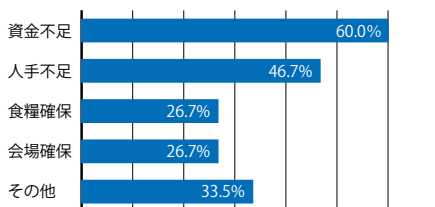
本会では、今年度より、配慮が必要なお子さんが子ども食堂に参加するために必要な環境整備等費用も助成対象として拡充しました。詳しくは、総務企画課までお問合せください。

TEL：0776-24-2339

申込期限：令和8年10月31日

助成先アンケート結果より（2026.2月）

こども食堂運営の課題



【子ども食堂開設の成果・効果・展望】

- ・子ども食堂を運営してみて、支え合う社会への入り口のひとつは「食」であることに気づいた。「食」が真ん中にあれば自然に人が集まり、笑顔が増えていくことを身をもって体感した。
- ・食堂に来てくれるおじいちゃんおばあちゃんもいたので、次年度はシニア世代のパワーもお借りできるよう、社会に役立つ楽しい仕掛けを作っていきたい。
- ・今後は運営に携わる仲間を増やし、ボランティアや地域の協力者とともに安定した運営体制を築いていきたい。



（株）平和堂 総務部総務課長

西 政明 氏

平和堂では2017年より、滋賀県内で店頭募金や企業寄付を通じた子ども食堂の支援を行ってきました。

かねてより、福井県をはじめとする他の出店地域でも同様の支援を広げたいと模索していましたが、なかなかきっかけを掴めずにいました。

そんな折、新聞でこども食堂ネットワーク設立のニュースを目にし、すぐにご連絡をしたことが始まりでした。多くのやり取りを経て「福井県社会福祉協議会」とのご縁が生まれ、念願だった福井での支援をスタートすることができました。

開始に至るまでにはいくつかの困難に直面し、諦めかけたこともありました。しかし、福井の子ども食堂で温かく活動されている方々の光景を思い出すことで踏ん張ることができました。

諦めずに取り組み、今日を迎えることができ本当に良かったと感じています。

この経験を糧に、福井県でも子どもたちの笑顔につながる支援が継続した活動となるよう、これからも励んでまいります。

子ども未来応援バンク

URL: https://www.f-shakyo.or.jp/by_organization/shakyo/kodomo_mirai_bank



（株）平和堂

URL: <https://www.heiwado.jp/company>



日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料(1名あたり) 団体割引20%適用済/過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン
保険金の種類			
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円
		外来の手術	32,500円
	通院保険金日額		4,000円
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷	×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円

商品パンフレットは
コチラから(ふくしの保険
ホームページ)

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL: 03 (3349) 5137

受付時間: 平日の9:00~17:00 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL: 03 (3581) 4667

受付時間: 平日の9:30~17:30 (土日・祝日、年末年始を除きます。)

寄付・寄贈

5月14日 寄付者 株式会社梅田不動産鑑定事務所 様

● 寄付額 10万円

寄付先 福井県社会福祉協議会(子ども未来応援バンク)

5月25日 寄付者 一般社団法人生命保険協会 福井県協会 様

● 寄付額 5万円

寄付先 福井県社会福祉協議会
(子ども未来応援バンク)



6月10日 寄付者 匿名 様

● 寄付額 16万9,124円

寄付先 福井県社会福祉協議会 (子ども未来応援バンク)

6月15日 寄付者 福井県信用金庫協会 様

● 寄付額 23万5,500円
使用済み切手 20.1 kg、
書き損じはがき 7枚

寄付先 福井県社会福祉協議会
(地域福祉推進活動、海外被災地支援)



心温まる寄付・寄贈に心から感謝申し上げます。皆様の善意は有効に活用させていただきます。

「シニア応援文化祭」出演グループ募集！

昨年度に引き続き、今年度もシニアグループ活動発表の場の創出、グループの活性化、交流を目的として「シニア応援文化祭」を開催します。ただ今、出演グループを募集しています！

開催日 令和8年12月5日(土) 10:00～16:00

会場 ハピテラス(福井駅西口)

対象 県内で60歳以上が中心のグループ

内容 音楽・ダンス・演劇など自由

発表時間 出入り含めて10～30分程度

募集数 6～8団体(応募多数の場合は選考あり)

【応募締切】 令和8年7月31日(金)
▶応募は申請書を提出(Forms・メール・FAX)



演奏そのものも楽しかったし、ほかの催し物なども含めお祭り全体が楽しかったです！
(昨年参加：オカリナアンサンブル・ドルチェのみなさん)

大きな舞台上で演奏でき、音響もよく楽しく気持ちよく歌うことができました。
(昨年参加：ウッドカンパニーのみなさん)



「日頃の活動を発表したい！」「新しい交流を広げたい！」と考えているグループの方にぜひご案内ください。

問合せ
・
申込先

地域福祉課

Tel. 0776-24-2433 Fax. 0776-24-0041
Eメール sukoyaka@f-shakyo.or.jp

